



# 航空エンジンの歴史に思いはせ

## 静岡理工科大資料館(牧之原)に無償貸与

静岡理工科大の静岡航空資料館(牧之原市坂口)で6日、大正・昭和期に活躍した航空関連エンジンやプロペラなどの一般公開が始まった。JRW西日本が収蔵してきた82点を無償で借り受け、このうち55点を常設展示。「とりわけエンジンの歴史的価値が高いものじっくりに携わる人にぜひ見てほしい」と呼び掛ける。(榛原支局・佐藤章弘)

大正から昭和にかけて使われた飛行船用のピストンエンジンに始まり、プロペラ付きエンジンや世界で初めて実用化されたジェットエンジン、ロケットエンジン計15基を開発年代順に並

### JRW西日本

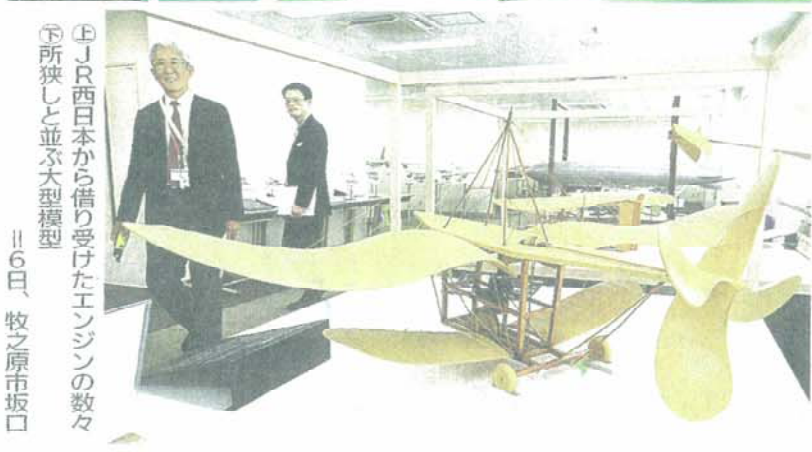
べている。このほかプロペラ11本などを展示。別館ではライトフライヤー号や戦闘機、旅客機といった大型模型25点を置く。

JRW西日本の所蔵品で交通科学博物館(大阪)で管理されてきたが、同館の閉

## 大正・昭和のプロペラ、模型

館と京都鉄道博物館(京都)の開館を契機として大学側から借り受けを打診した。約1年間の交渉を経て今年1月に貸与が決まり、3月以降に搬入・展示作業を進めてきた。同大の外山浩介理事長は「歴史的なエンジンがこれだけそろったことは、そうそうない」と意義を話す。

航空資料館は水、木曜日を開館する。事前予約制。現在は電話で受け付けているが、11月をめどに大学ホームページから予約できるようになるという。



④JRW西日本から借り受けたエンジンの数々所狭しと並ぶ大型模型

⑤6日、牧之原市坂口